慈眼

第16号

発行所
藤津郡塩田町大字
五町田甲1307 学成院内
TEL 09546-6-2285
FAX 09546-6-2771
日蓮宗佐賀
教化センター
発行責任者
小寺大誠

同門の師

日蓮宗佐賀県声明師会会長
正福寺住職　藤本宣文

この度、日蓮宗佐賀県声明師会会長の職を請ける事となり、未熟ではありますが重責を全うすべく、努力精進を致す所存です。管内ご寺院の皆様、檀信徒の皆様の尚一層のご指導、ご協力を戴ければ幸いです。

まず声明師会の活動について述べますと、日蓮宗には布教師会、修法師会、社会教化事業協会、声明師会と公式に四つの会があり、本会は本来、声明及び法要儀式作法に関する技術の向上と普及徹底を目的とし、関連して県内で普及して参りました「和讃」の指導等、檀信徒の皆様とは一番関わりの深い組織です。

会の名称の声明とは、大意で仏教声楽であり、梵唄（インドの僧侶が修めなければならない修行の一つで、経文・仏・菩薩の称号に節を付けて唱え、仏の教えや徳をたたえるもの）です。法要の始中終に唱え、独立したものでなく、読経、礼拝等一連の法要儀式の重要な部分を担うものです。日蓮宗法要儀式の式次第、所作等を解説したテキスト、宗定日蓮宗法要式がありますが、その巻末の跋文に「法要式は芸術である。しかもそれは敬虔崇高なる信仰を基盤とし、全身全霊を以て創造する最も厳粛にして典雅なる綜合芸術である。」法要式に臨むにあたって重要な心構えは精神として尊重、態度として厳粛の二箇条を以て臨むべしとあります。

布教の方法を大別すれば、言説布教（お説教による布教）、修法布教（ご祈祷による布教）、法要布教（葬儀、供養等の法要による布教）があります。言説・修法布教は各々の能力に応じた布教方法と言えますが、法要布教に限っては僧侶である以上、必ず修めなければならない布教です。しかしその心が、声明・読経を声良く上手に唱え、参列している人を感動させてやろうと言う気持で営む法要であれば、単なる儀式の執行でしかなく、布教とは言えません。三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならないのです。檀信徒の皆様方で、今は亡き人の三回忌、七回忌等の追善供養を営まれるとき、菩提寺のお上人様にお願いされると思いますが、まず法要に臨む心構えが重要であり、「信は荘厳より生ず」と言われるように大切な方を鄭重にお迎えする準備を整える事が第一です。僧侶を招いてお経を上げてもらう所謂「法味言上」も重要な事ですが、僧侶の読経のみで供養が成り立つのではなく、法要の導師を勤める僧侶、供養の施主、故人と深い関わりのある参列者、それぞれの心が一つになって、自分の志す仏だけでなく、普く諸々の仏に対しても等しくこの功徳が及んで参りますように。との願いがあって始めて供養の意義があり、善を追する法要となるのです。

声明師とは、法儀声明普及の役割を任ぜられた者で、私は昭和五十年、二十五歳の時、声明師を拝命し、以来二十六年の間、声明道一筋に努めて参りましたが、この声明の道に入るきっかけとなったのは、今は亡き師父、経住院日宣上人の勧めであり、今日まで続けてこられましたのは、多くの同門の師であります。中でも昭和五十年当時の青年会会長、故辻　智彰僧正には先輩として優しく励まして戴き、また北方・梅林寺御住職、山中前賢僧正には厳しい助言を戴きました。今でもその言葉の一つひとつが今日迄の大きな糧となっていると言っても過言ではありません。

現在では同じ声明道を志す県内外の多くの仲間に恵まれ、当山で毎月開催している「声明勉強会」には、県内はもとより、遠路宮崎・熊本・大分・福岡の地より片道五時間以上もかけて毎回参加してくれる多くの大切な仲間がおります。その熱意に心を打たれ、頭の下がる思いで自分なりに今日まで学んで得てきた全てのものを伝えるべく、共に精進致しております。

県境をなくし、同じ目標を持った志ある仲間との研修は、私の宝であり、生涯の生き甲斐でもあります。

法儀声明は須く修練を要し、一朝一夕では習得する事が出来ず、習得できたとしても続けていないとすぐ錆び付き、我流になってしまう。大変でもあるが、醍醐味でもある。この魅力に惹かれて、これからも多くの同門の師と共に学び、共に研鑽を重ねる事が規範師を目指す大きな力になると確信致します。

妙法蓮華経の第七、化城喩品の一節に「願以此功徳　普及於一切　我等與衆生　皆共成仏道」願わくは　此の功徳を以て　普く一切に及ぼし　我等と衆生と　皆共に仏道を成ぜん　とあります様に、法儀声明に、和讃にと、研鑽を積んで共に仏道を修めてまいりましょう。

合掌

【特集】《日蓮大聖人のご生涯》

前号より引き続き日蓮大聖人のご生涯をたどって参ります。

《前号まで》

清澄寺で立教開宗宣言をされた日蓮大聖人は、民衆だけではなく幕府に対しても強く法華経への帰依を訴えられました。これを快く思わない執権・北条長時や東条景信をはじめとする念仏者らによって伊豆法難・小松原法難が引き起こされたのでした。

《祈　雨》

文永五年蒙古からの国書到着以来、自らが予言した他国侵逼難（外国からの侵略）の実現の近い事に危機感を抱かれた日蓮大聖人は前にも増して激烈な宗教活動を展開されていました。時の執権・北条時宗に「立正安国論」を読み返すように迫ったりもしましたが幕府は前回同様何の返答もなく黙殺されたのです。

文永八年の夏は干天が続き、幕府は真言律宗の良観房忍性に雨乞いを命じ、良観は極楽寺・多宝寺の僧を動員して修法に入りました。日蓮大聖人は、恐らく良観仏教の呪術性・非精神性をあばいて幕府の宗教観を醒ませようと思われたからでありましょう。極楽寺に使をやって「七日の内に雨があれば自分は良観の弟子になろう、もし降らなければ法華経に帰せよ」と言い送り、ついに雨は降らなかった。社会事業を盛大に行って鎌倉中から生き仏と崇められる良観は、負けた悔しさから日蓮大聖人の排斥運動に専念するようになりました。

鎌倉で再び逮捕される

《召し捕り》

日蓮大聖人への怨みを深めた良観は表面だって動き始めました。法律を守るべき役人も、生き仏とまで云われた人には逆らえず、法に従わず人に従って動いたのです。一応日蓮大聖人の意見を聞くと云う形をとったものの、文永八年九月十二日、平左衛門頼綱を先頭に多くの兵士が戦に行くようないでたちで草庵に押しかけ、なぐるけるの暴行を加えたうえ、お経本を破り家中をかき回しました。

日蓮大聖人たった一人を捕えるにしては余りにも派手な事ですが、これは幕府の権威を鼓舞する思いと、鎌倉中に大聖人がいかに重大犯罪人であるかを宣伝するねらいがあったのでしょう。

《龍口法難》

捕えられた日蓮大聖人は、はだか馬に乗せられ、江の島片瀬龍の口刑場へと引かれていったのです。知らせを聞いた信者の四条金吾達も、一緒に死ぬ覚悟で駆けつけました。いよいよ首を切ろうと役人が刀をかまえたとたん、江の島の方角から不思議な光の玉が飛んできて、役人は驚いて逃げ去り処刑どころではありません。幕府は処刑命令を撤回し、日蓮大聖人は九死に一生を得られたものの、遠国佐渡へ流罪の身となられたのでした。

種種御振舞御書

文永八年太歳辛未、九月十二日御勘気をかおる。その時の御勘気のようも常ならず、法にすぎてみゆ。～略～今夜頸切られへまかるなり。この数年が間願いつる事これなり。日蓮、貧道の身と生れて父母の孝養心にたらず、国の恩を報ずべき力なし。今度、頸を法華経に奉りてその功徳を父母に回向せん。其あまりをば弟子檀那等にはぶくべし、と申せし事これなり。

佐賀の老舗
技術本位　信用本位
辻の堂の仏だんや
(株)本庄仏具総本店
佐賀市堀川町（辻の堂）● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀　木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会
OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社
草苑 [SOU-EN]
北佐賀草苑　佐賀市兵庫町藤ノ木1115　(0952) 30-4040
南佐賀草苑本庄　佐賀市本庄町大字本庄951　(0952) 25-1255

天諸童子以為給使
刀杖不加毒不能害

《安楽行品第十四》

法華経安楽行品第十四の中のことばです。真に法華経を世に弘めるものはどんな艱難に値っても、必ず天がこれを譲るということです。

天の童子が法華経を弘める人を給仕し、介抱せしめます。そうして武器を持ってこれを害そうとしてもその武器が役に立たない。刀杖も加えることができない。あるいはまた毒をもってこれを害そうとしても、これを害することはできないと説かれています。

日蓮大聖人は命がけで法華経を信仰されました。

普通、我々の信仰の仕方といいますと、大概自分の行いは悪いが浄土にやってくれとか、楽をして金が儲かりますように願う。あるいは自分ほど信仰するものはいないがくだらないことですぐ怒る等、行動を伴わない欲望だけの信心、信仰ということも多いようです。

又、逆に「仕事が忙しくて信仰する暇がない」？というような事を聞いたことがあるのですが、信仰とは寺の本堂や仏壇の前で経を読んだり題目を唱えたりすることだけだと考えておられるのでしょうか。

もちろんそのことは信仰活動の大切な行いなのですが、本来信仰とは日常の生活を離れては在りえないのです。例えば仕事をしている時も、食事をしている時も、歩いたり車を運転していても寝ていても仏の心でいる。

日蓮大聖人が、弟子の日朗上人にあてた手紙の一節に「法華経を余人のよみ候は、口ばかりことばばかりはよめども心によまず、心によめども身によまず」（土籠御書）と書かれておられます。

ご本尊である久遠の本師お釈迦様、その教え（題目）を信じ、生活行動する、生きているうちに仏の心を持ち、自らの命は惜しまず命がけの法華経の生活をされたのが日蓮大聖人です。

その為、龍の口の法難で奇跡的に救われたのは、天の助けがあり雷が刀に落ちたからだといわれています。

世界が宗教対立している今、上辺だけでない法華経に立脚したしっかりとした信仰的考え、行動が日蓮大聖人に一歩でも近づく事であり、大聖人の「立正安国」を目指し精進してゆかなくてはなりません。

「お寺へのQ&A」

Q今度初めて参拝団に参加するのですが、何か特別に準備するものはありますか？

A参拝団（通称、団参）の準備と致しましては、通常のご旅行の準備と大差ございませんのでご心配なく！しかし、団参は通常の観光旅行とは違い、信仰を旨としますので、やはり、それなりの準備と心構えが必要です。まず、通常の旅行の準備に動き易い服装・滑りにくい靴に加え、念珠・行衣（お持ちでない方は参加申込書にご記入の上、お申し込み下さい。一着五千円／サイズM・L）保険証のコピー・緊急時の連絡先を書いた紙・常用している薬。など。あと、必携ではありませんが、御朱印帳（参拝先の御寺院で朱印を押して戴く為のもの。日蓮宗新聞社にて販売されております。）なども有ると良いですよ。その他解らない事が有れば団参事務局か、菩提寺のお上人様にお聞き下さい。

日蓮宗佐賀県青年会よりのお知らせ

この度青年会では「九州名刹参拝団」（九州団参）を、左記の如く企画しております。お一人でも多くの皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

◎期日　平成十三年十月三十～三十一日
一泊二日（添乗員同行）
◎代金　三万千五百円（御開帳料含む）
◎申込金　一万円（お一人様）※旅行代金に充当致します。
◎募集人員　九十人（定員になり次第締め切ります）申し込み先は、菩提寺、又は日蓮宗寺院・教会まで。
◎問合せ先　団参事務局　多久市等覚寺
TEL（0952）74-2638
◎締切日　平成十三年十月五日（金）

・寺院用具一式　・前卓　・銅金物　・宮殿
・登高座　・修復　・須弥壇　・経机
・仏壇　・人天蓋　・美術彫刻品　・仏具
・幡幕　・宗教絵画　・神殿用具　・珞珞
・塗物　・其の他　・仏像彫刻　・箔者

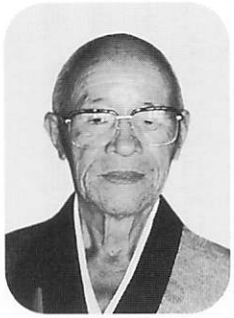
手を合わせるこころを大切に・・・・
山本仏具
佐賀市呉服元町10-12
〒840-0824 ☎(0952) 23-4308

創業明治22年
旅館
あけぼの
佐賀市中ノ小路3-10　☎(0952)24-8181

寺院紹介（十三）

《長照山 長栄寺》

小城郡三日月町道辺八〇九番地



手嶋正奠住職

南には広々とした田園風景が広がり北には天山々系の山が望める場所にあります。

【歴　史】

長栄寺は、今から約三百年ほど前の元禄元年（一六八八）開山南照院体相律師日楊大徳によって建立されました。俗に言う隠居寺で、開山を除いて以後、歴代の先師の資料はとぼしく詳しくは残っていません。

【諸　堂】

明治三十八年（一九〇五）智海院日栄上人の代に間口四間、奥行四間半の本堂が建立されました。本尊勧請様式は一塔両尊合唱印、御尊像は、嘉永四年（一八五二）に作製された説法像です。

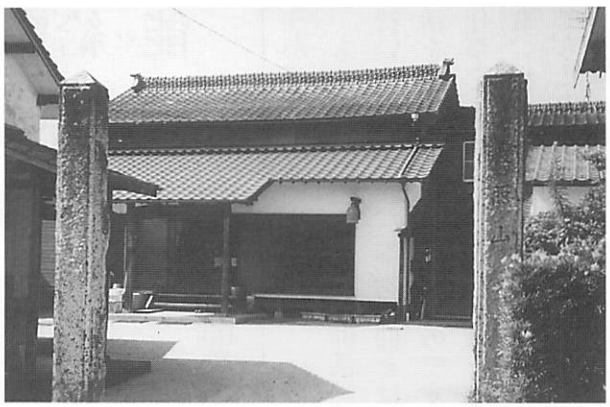
昭和二年（一九二七）第二十世海宝院日照上人の代に五坪の鬼子母神堂を建立、向かって左に三十番神像、右には千手観音像、正面に鬼子母神像がおまつりしてあります。又、山門、参道の整備をされました。

その後本堂、庫裏共に幾度と改修、改築されましたが、現在の住職手嶋正奠上人が、昭和二十二年（一九四七）三月十八日二十八歳で第二十三世として長栄寺に入寺されたとき、藁葺屋根で室内は暗く雨漏りも多い荒れ寺で、当初はたいへん苦労されたそうです。

昭和三十五年、二月、庫裏の増築。昭和三十八年、長栄寺開山以来歴代上人の墓を建立。

昭和四十三年、日蓮大聖人生誕七五〇年の記念事業として本堂、庫裏の屋根を瓦に。

昭和四十九年、尊神堂の改築。その後も幾多の増改築を加え現在の姿となりました。



〈長栄寺全景〉

【万部読誦の宝塔】

第二世蓮高院日珠上人、第三世高修院日峯上人は、たいへん御経の達者な人物でした。

法華経は、全八巻二十八品（章）からなりますが、文字数で言えば六万九千三百八十四文字にもなります。これをすべて読誦することを一部経読誦と言います。日珠上人、日峯上人が一部経を一万回づつ、即ち六億九千八百三十四万文字と言う莫大な数を読誦された記念に建立された宝塔です。

〈万部読誦の宝塔〉

【寺　宝】

第七世日廣上人の代より釈尊大涅槃像掛軸一幅所蔵。箱の表には、湛然山寿因坊裏には涅槃像文政十二年（一八二九）丑二月日廣と記してあります。

現在、二月十五日の釈尊涅槃会の時には正面にお飾りしてお題目講が行われています。

〈大涅槃像図〉

仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を
梅谷佛具店
TEL 092-271-0456
本店 〒812-0027 福岡市博多区下川端町10-9（地下鉄中洲川端駅下車）
フリーダイヤル 0120-39-0456
支店 〒819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4 TEL 092-806-7499

通産大臣認可　7産第2930号
株式会社 冠婚葬祭こころの会
KOKORO
三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633
こころの会指定店
総合葬祭 有限会社 黄城
小城町270 ☎73-3938・FAX72-3633